

2015年度決算概要 及び 2016年度業績予想

2016/5/11

 **住友重機械工業株式会社**
社長 別川 俊介

Copyright © Sumitomo Heavy Industries, Ltd. All Right Reserved.

INDEX

01 2015年度決算概要

02 2016年度業績予想

03 「中期経営計画2016」進捗

01

2015年度決算概要

01 2015年度 業績サマリー

単位：億円

■ ポイント

(1) 受注高

- ・産機セグメントは増加も、建機、船舶、環境・プラントが減少のため前期比減少。
- ・機械コンポ、精密は横ばい。
- ・船舶受注は前期 9 隻に対し当期 2 隻。

(2) 売上高

- ・過去最高を更新。増収増益達成。
- ・建機を除くセグメントで増加。
- ・精密は射出成形機、産機は産業用クレーンが大幅増。
- ・環境・プラントはボイラが増加。

(3) 営業利益

- ・建機、環境・プラントで減少するも、機械コンポ、精密、産機、船舶で増加。

	2014	2015	増減
受注高	7,408	6,859	△549
売上高	6,671	7,008	337
営業利益	460	506	46
営業利益率	6.9%	7.2%	0.3%
経常利益	451	491	40
経常利益率	6.8%	7.0%	0.2%
特別損益	△64	△20	44
税金等調整前 当期純利益	387	472	84
当期純利益	243	331	88
当期純利益率	3.6%	4.7%	1.1%

01

セグメント別営業利益

単位：億円

■ 対前期比較

＜機械コンポーネント＞

世界的な大型減速機の需要減あるも国内および北米、欧州(中小型)は堅調により増益。

＜精密機械＞

射出成形機売上増および利益率改善、半導体装置売上増等により大幅増益。

＜建設機械＞

油圧ショベルの中国事業悪化により減益。

＜産業機械＞

産業用クレーン、タービンの売上増により増益。

＜船舶＞

新造船の引渡しは前期同様3隻。操業度が改善し営業利益は黒字転換。

＜環境・プラント＞

ボイラの工期延長等によるコスト増により減益。

	2014	2015	増減
機械コンポーネント	66	89	23
精密機械	135	187	52
建設機械	119	44	△75
産業機械	58	100	42
船舶	△12	10	22
環境・プラント	75	58	△17
その他	18	18	△0
計	460	506	46

01

連結貸借対照表

単位：億円

	2015/3末	2016/3末	増減		2015/3末	2016/3末	増減
流動資産	4,920	4,930	10	負債	4,209	4,000	△209
現預金※	924	708	△216	買掛債務	1,404	1,423	19
売上債権	1,949	2,199	250	前受金	447	352	△95
たな卸資産	1,538	1,563	24	有利子負債	836	682	△154
その他	508	460	△48	その他	1,521	1,543	22
固定資産	2,940	2,899	△42	純資産	3,651	3,828	177
有形固定資産	2,283	2,278	△5	株主資本	2,937	3,210	272
無形固定資産	93	112	19	その他の包括利益 累計額	664	557	△107
投資その他の資産	564	509	△55	非支配株主持分	50	62	12
合計	7,860	7,829	△32	合計	7,860	7,829	△32
				ネット有利子負債比率	△1.1%	△0.3%	0.8%
				自己資本比率	45.8%	48.1%	2.3%

※ 現預金には現金同等物を含む。

01

連結キャッシュフロー計算書

- 売上増により運転資本は増加するもFCFはプラスを確保。 単位：億円

区 分	2014	2015	増減
営業活動	622	183	△439
税金等調整前当期純利益	387	472	84
減価償却費	163	197	34
運転資本	117	△346	△463
その他(税金等)	△45	△140	△95
投資活動	△141	△154	△12
(フリーキャッシュ・フロー)	481	30	△451
財務活動	△369	△238	131
現金・現金同等物増減	140	△224	△364
現金・現金同等物期末残高	903	686	△217

02

2016年度業績予想

02

2016年度業績予想

- 2015年度の配当は期初予想14円から2円増配し16円に。
- 2016年度は、為替影響と射出成形機のIT向け需要減を主要因として減益を予想。
- 配当は年間14円の予定。

	2015上期 実績	2015下期 実績	2016上期 予想	2016下期 予想	2015年度実績	2016年度予想
受注高	3,563	3,296	3,600	3,500	6,859	7,100
売上高	3,225	3,783	3,300	3,700	7,008	7,000
営業利益	184	322	170	300	506	470
営業利益率	5.7%	8.5%	5.2%	8.1%	7.2%	6.7%
経常利益	168	323	160	285	491	445
経常利益率	5.2%	8.5%	4.8%	7.7%	7.0%	6.4%
特別損益	△2	△18	△15	△10	△20	△25
当期純利益	115	216	100	180	331	280
当期利益率	3.6%	5.7%	3.0%	4.9%	4.7%	4.0%
配当	7円	9円	7円	7円	16円	14円
配当性向					29.6%	30.6%
ROIC (税引後)					7.6%	7.1%
織込レート(ドル)					116円	110円

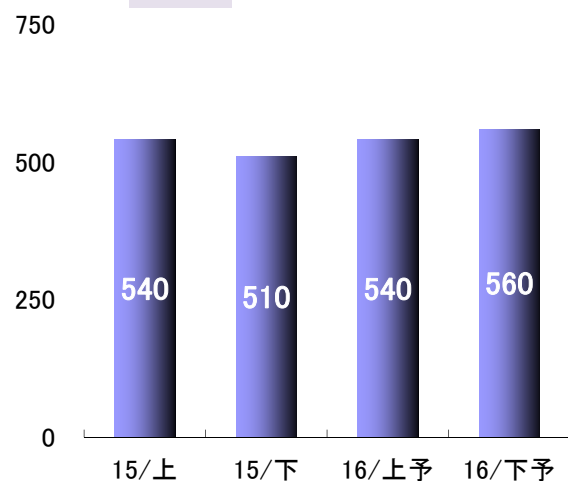
02

機械コンポーネント

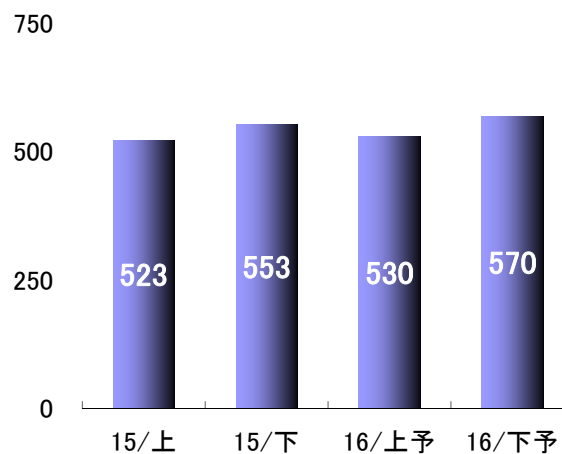
15年度： 中国および資源分野向け大型減速機の市況低迷継続。国内の中小型および精密減速機は下期に入りやや減速したが北米・欧州が堅調に推移し受注・売上とも前期に続き過去最高を達成。収益力も改善傾向。

16年度： 不透明感あるも国内、北米、欧州は堅調に推移すると予想。一方、中国および大型は低迷長期化。新機種投入、サービス強化などで成長持続。

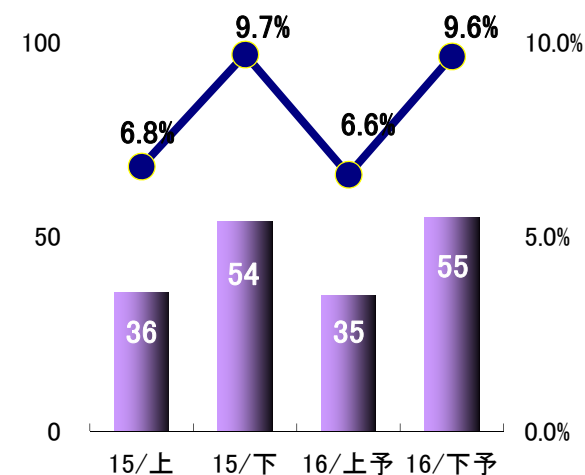
単位:億円 受注



売上



営業利益



02

精密機械

〈プラスチック機械〉

15年度： アジアでのIT関連市況が2Q以降減速。北米の自動車関連や東南アジアが伸長。国内、欧州も堅調に推移したことから受注、売上ともに過去最高。

営業利益も大幅増。

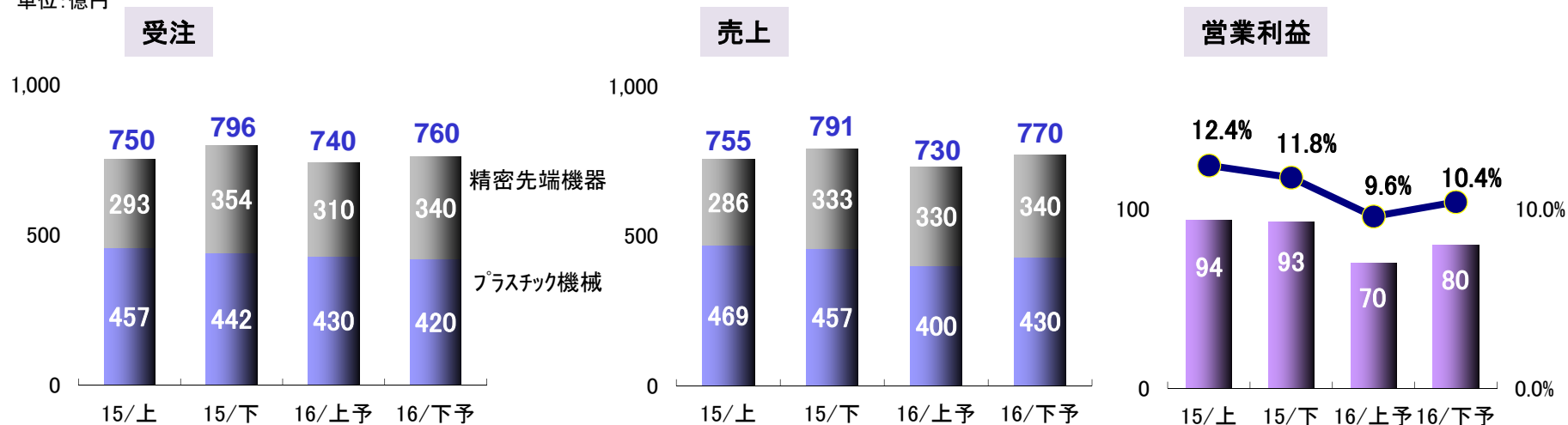
16年度： IT関連市況低迷が継続し、減益を予想。ただし、国内、米州、アジアでカバー。自動車向け強化。

〈精密先端機器〉

15年度： 医療機器用の極低温冷凍機は、受注・売上とも前期と同レベル。半導体関連機種
の受注は、前期に比べ減少したものの売上・利益は増加し堅調に推移。

16年度： 医療機器用の極低温冷凍機、半導体関連機種とも堅調に推移。

単位：億円



02

建設機械

<油圧ショベル>

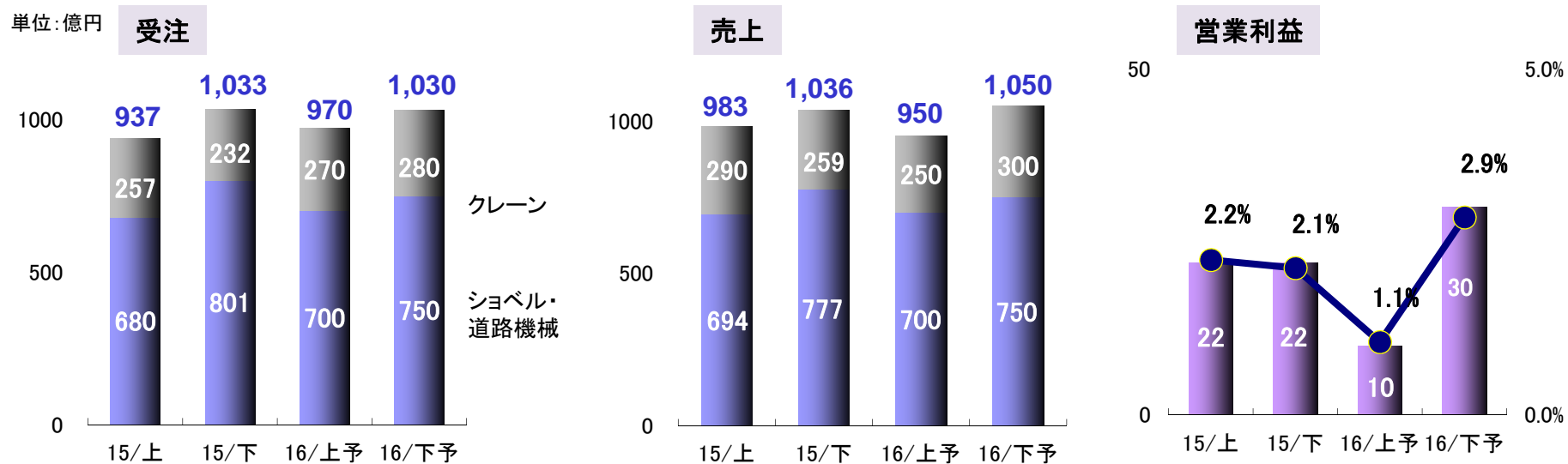
15年度： 中国市場の需要が大幅に減少したことや、国内における前年度の排ガス規制対応の駆け込み需要の反動減などにより、受注、売上ともに前期比減少。

16年度： 中国市場停滞により業績低迷継続。一定需要の国内、比較的堅調な北米・欧州でのシェア改善を図る。

<モバイルクレーン>

15年度： 北米市場のオイル関連需要の回復が遅れていることから、受注は前期に比べ減少したものの売上は増加。

16年度： 北米市場は下期から緩やかな回復を見込む。



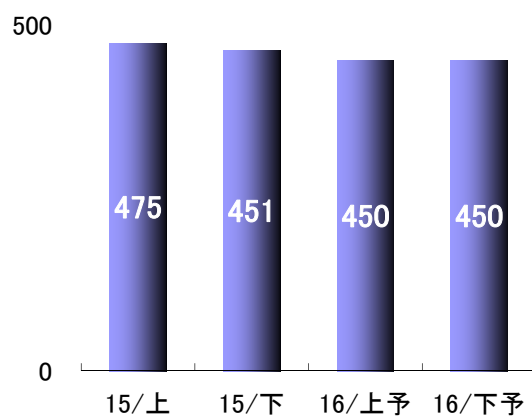
02

産業機械

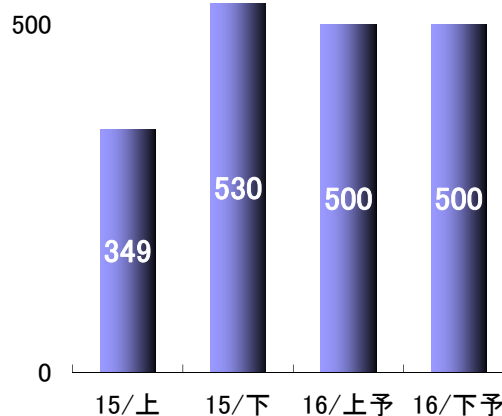
- 15年度：** 国内造船業界向け産業用クレーンが好調に推移。産業機器は上期に陽子線がん治療装置を受注するなど、前期に比べ受注増加。売上・利益は産業用クレーンとタービンが増加したことから前期比大幅増加。
- 16年度：** タービンは国内、海外市場の発電関連が堅調。産業用クレーンは造船関連が一巡しつつあるものの、三菱重工業の産業用クレーン事業との統合効果の拡大により好調継続の見込み。

単位: 億円

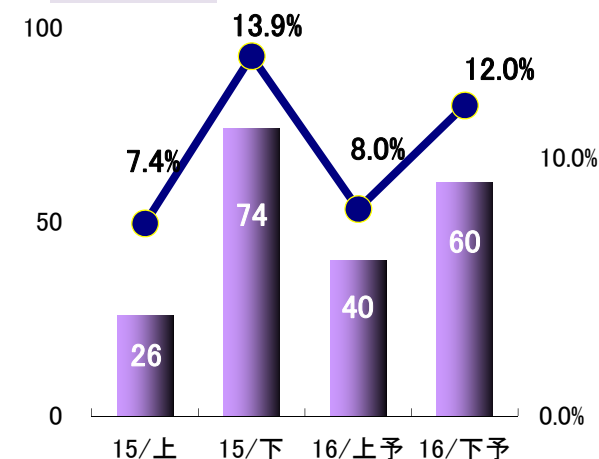
受注



売上



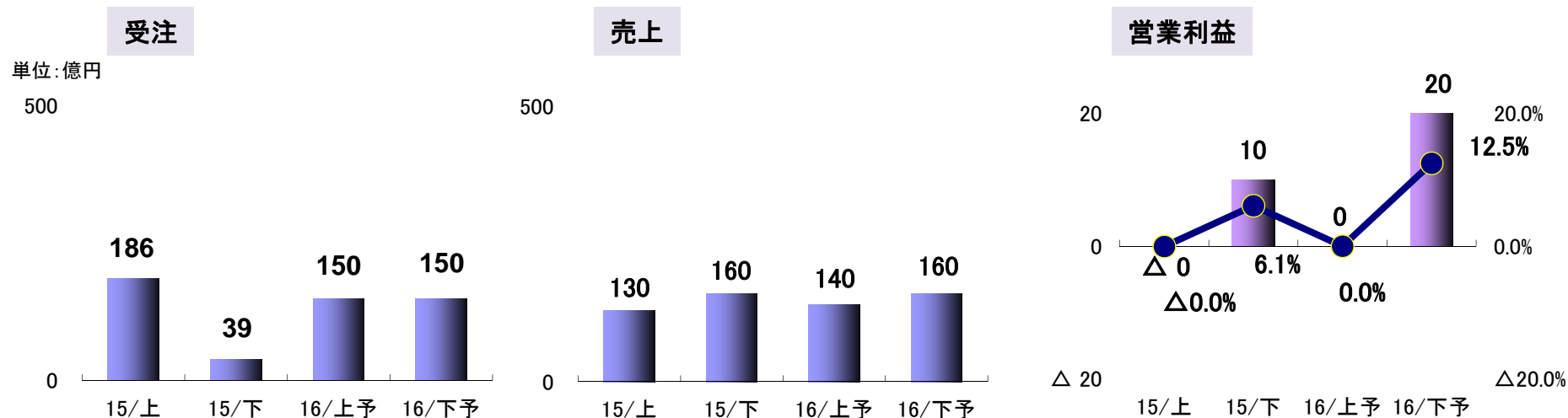
営業利益



02

船舶

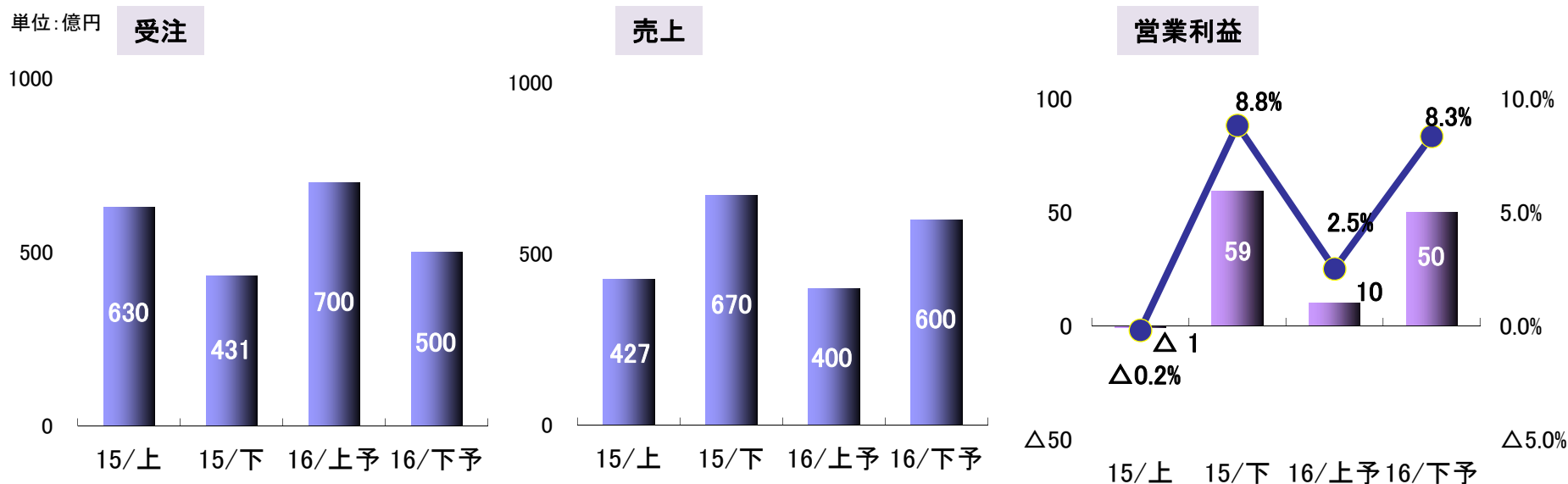
- 15年度：** 排ガス規制等のルール変更により14～15年駆け込み発注後、船主は16年1月以降発注手控え。当期は上期2隻受注にとどまる（前期比7隻減）。引き渡しは3隻と前期比同数。操業度が改善し営業利益は年間黒字に。
- 16年度：** 造船市況全般は厳しさを増すも中型タンカー市況は比較的堅調。受注時採算好転により営業利益は好転見込み。



02

環境・プラント

- 15年度：** ボイラ事業の受注は、期ずれ等により上期2件のみ。水処理プラント事業は大規模改修工事の受注などから前期比増加。売上は発電用ボイラ案件により増加したものの、工期延長等によるコスト増により減益。
- 16年度：** ボイラの市況は堅調継続も、工事進捗度により売上減少。水処理は前期受注増により売上増の見込み。



02

2016年度セグメント別業績予想まとめ

単位:億円

		2015上期 実績	2015下期 実績	2016上期 予想	2016下期 予想	2015年度 実績	2016年度 予想
機械コンポーネント	受注高	540	510	540	560	1,050	1,100
	売上高	523	553	530	570	1,076	1,100
	営業利益	36	54	35	55	89	90
精密機械	受注高	750	796	740	760	1,546	1,500
	売上高	755	791	730	770	1,546	1,500
	営業利益	94	93	70	80	187	150
建設機械	受注高	937	1,033	970	1,030	1,971	2,000
	売上高	983	1,036	950	1,050	2,019	2,000
	営業利益	22	22	10	30	44	40
産業機械	受注高	475	451	450	450	926	900
	売上高	349	530	500	500	879	1,000
	営業利益	26	74	40	60	100	100
船舶	受注高	186	39	150	150	225	300
	売上高	130	160	140	160	290	300
	営業利益	△0	10	0	20	10	20
環境・プラント	受注高	630	431	700	500	1,061	1,200
	売上高	427	670	400	600	1,097	1,000
	営業利益	△1	59	10	50	58	60
その他	受注高	44	37	50	50	81	100
	売上高	57	45	50	50	101	100
	営業利益	7	11	5	5	18	10
合計	受注高	3,563	3,296	3,600	3,500	6,859	7,100
	売上高	3,225	3,783	3,300	3,700	7,008	7,000
	営業利益	184	322	170	300	506	470

03

「中期経営計画2016」進捗

03

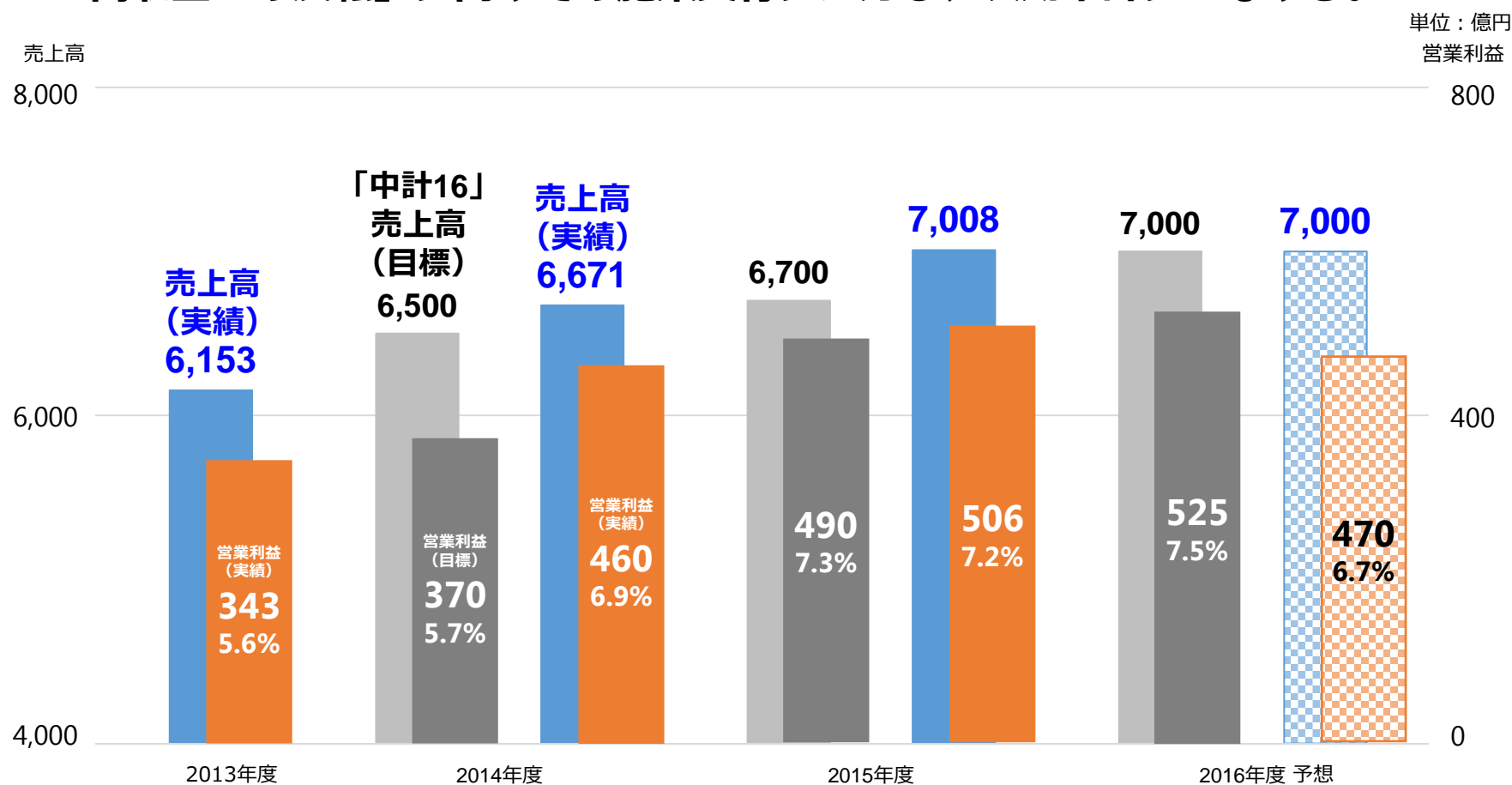
「中計16」の進捗（全体）

単位：億円

		13年度 実績	14年度 実績	15年度 実績	中計16 計画	16年度 予想
① 持続的成長の 基盤を構築するための 「着実な成長」	売上高	6,153	6,671	7,008	7,000	7,000
	設備投資	191	(14~16年度 3ヶ年累計)		500	700
	開発投資	186			450	440
	採用	152名			600名	約900名
② 「高収益への反転」	営業利益	343	460	506	525	470
	営業利益率	5.6%	6.9%	7.2%	7.5%	6.7%
	ROIC	4.8%	6.5%	7.6%	7.0%以上	7.1%
	配当性向	24.0%	30.2%	29.6%	30%	30.6%
③ 「たゆみなき業務品質改善」		—	コンプライアンス、安全、製品品質の レベル向上に継続して取り組む。			

03 「中計16」業績達成状況（全体）

- 15年度は「中計16」目標を1年前倒しでほぼ達成するも、部門間にはばらつきあり。
- 「高収益への反転」に向けての施策実行に注力し、次期中計につなげる。

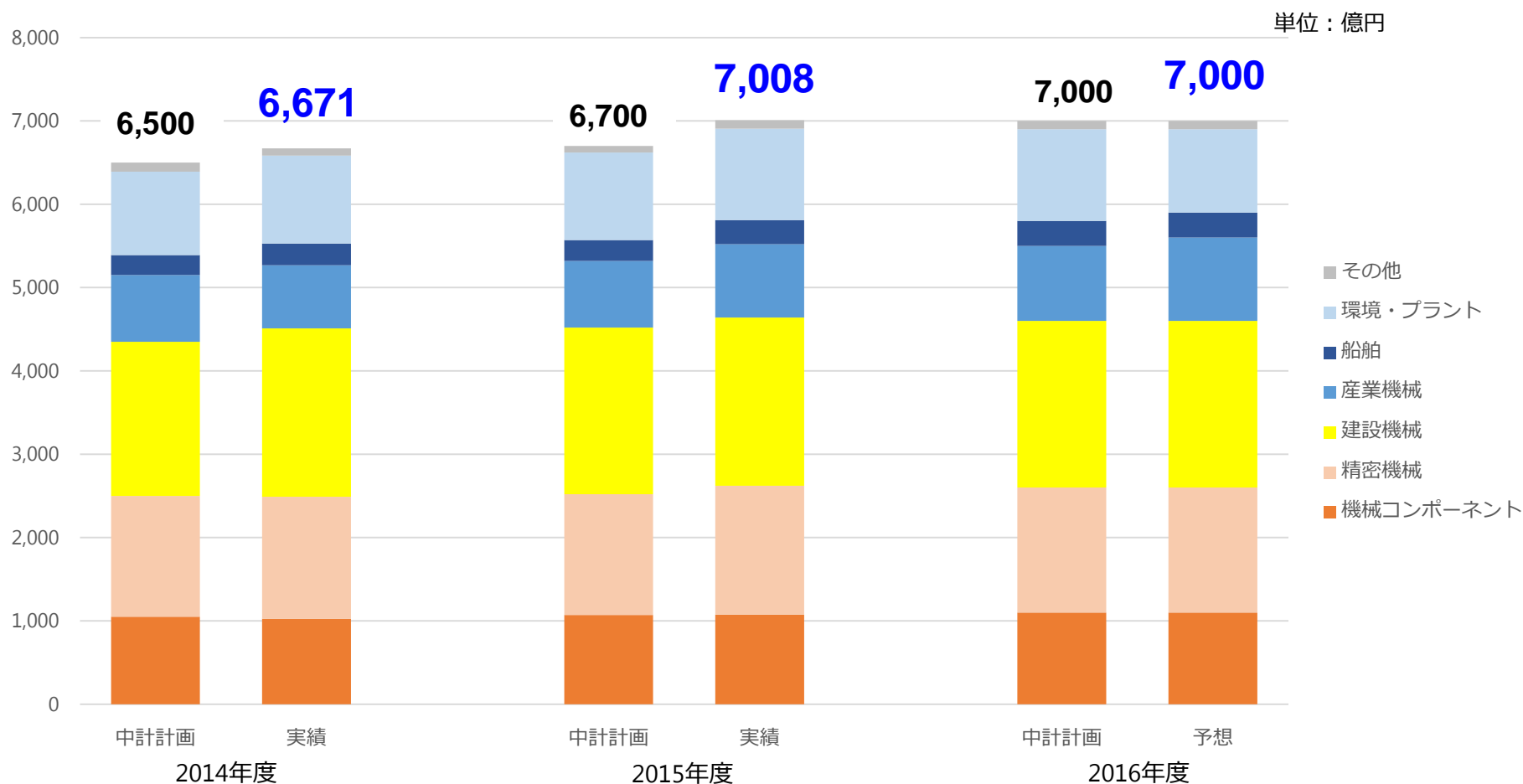


※ 2015年度目標は2013年度の中計策定時の数値

03

「中計16」 業績達成状況（セグメント別売上高推移）

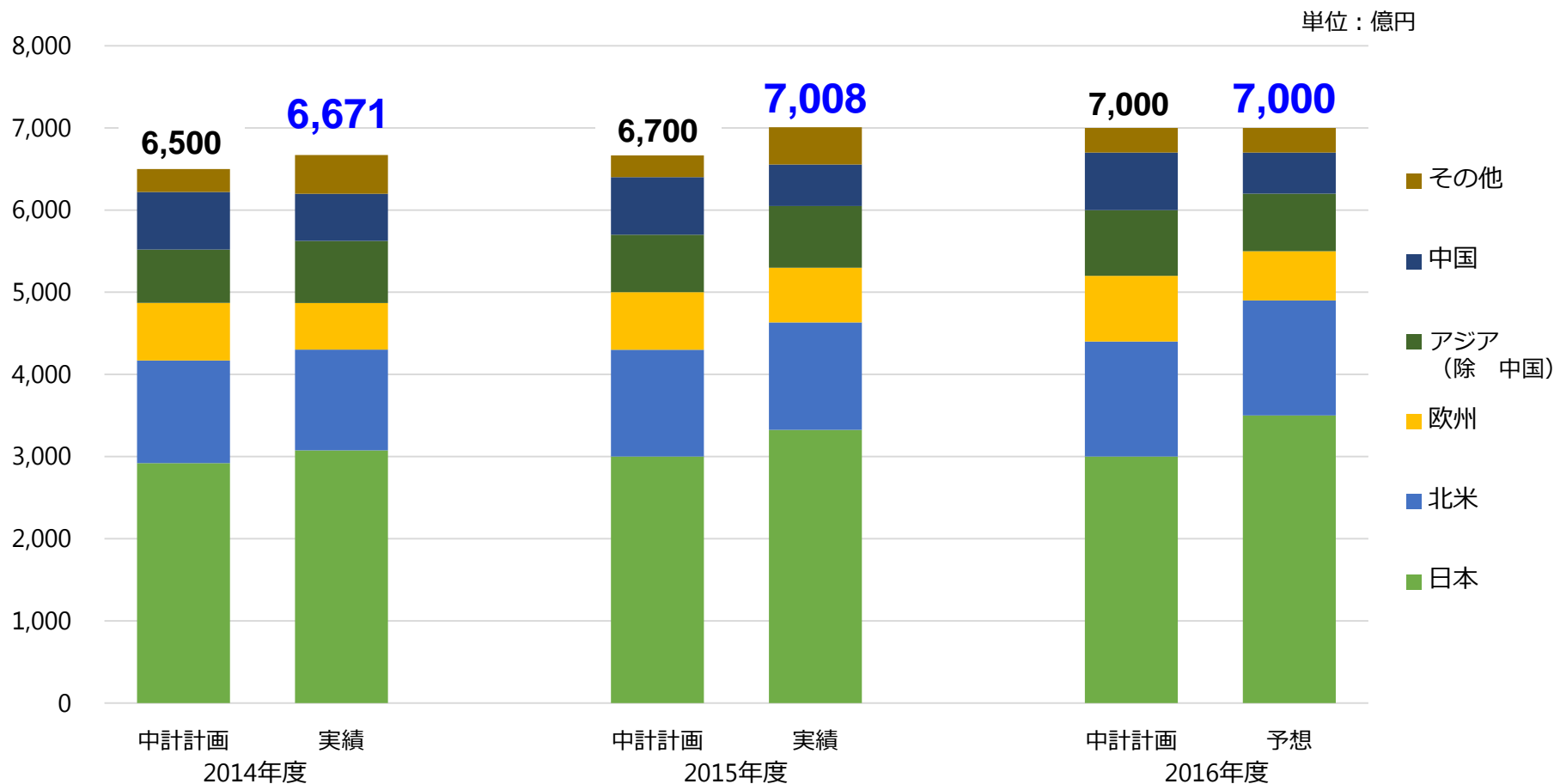
■ 「着実な成長」については、セグメント別でも売上高はほぼ計画どおり。



03

「中計16」 業績達成状況（地域別売上高推移）

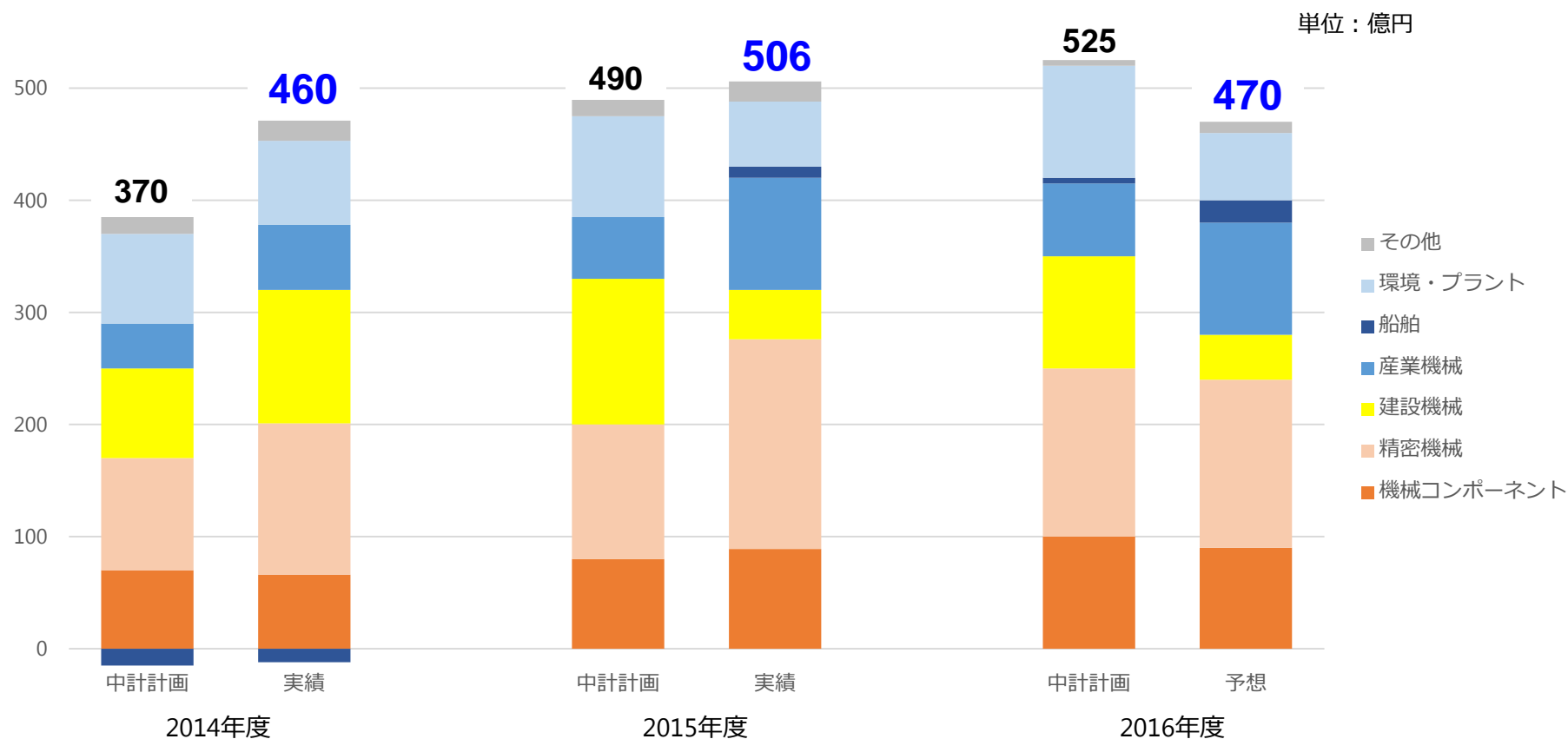
- 14年度：中国を除き各地域とも計画どおり。
- 15年度：中国の低調を日本でカバーし、計画を過達。
- 16年度：日本が牽引、他地域は15年度並み。



03

「中計16」 業績達成状況（セグメント別営業利益）

- 14年度：精密機械、建設機械が好調、中計16初年度計画は大幅過達。
- 15年度：中国景気減速と環境・プラントの一部機種個別損益悪化の影響があるも、精密機械、産業機械が好調により計画過達。
- 16年度：建設機械、環境・プラントが計画線に届かず中計最終年度利益は未達予想。



03

「中計16」事業環境予測と現況

地域	「中計16」当初予測	現況
国内	ほぼ横ばいを想定	景気回復に伴い各市場とも回復基調維持
中国	バブル懸念はあるが、 ショベル市場は底打ち	中国市場低迷でショベル需要も大きく落ち込み
アジア (除く中国)	需要旺盛なエネルギー関連で 成長	中国市場停滞の影響を受け、 成長は足踏み
欧州 北米	緩やかに景気が回復し、その 後堅調に推移	金融市場動向等に不透明感 は残るも、堅調に推移

(為替レート)	14年度	15年度	16年度	14年度	15年度	16年度
1ドル		100円		107円	116円	110円
1ユーロ		135円		136円	131円	125円

03

「中計16」事業の現在の位置付け

役割 位置付け	成長&高収益	収益力強化	収益安定化
	成長とともに 高収益（10%以上）達成 を目指す	収益力を強化	一定の利益率を 安定的に確保
次世代事業	極低温冷凍機		医療関連装置
装置系事業	変減速機 射出成形機	半導体製造装置 メカトロニクス	ショベル 鍛造プレス
インフラ系 事業	産業用クレーン タービン	モバイルクレーン 造船 水処理	ボイラ

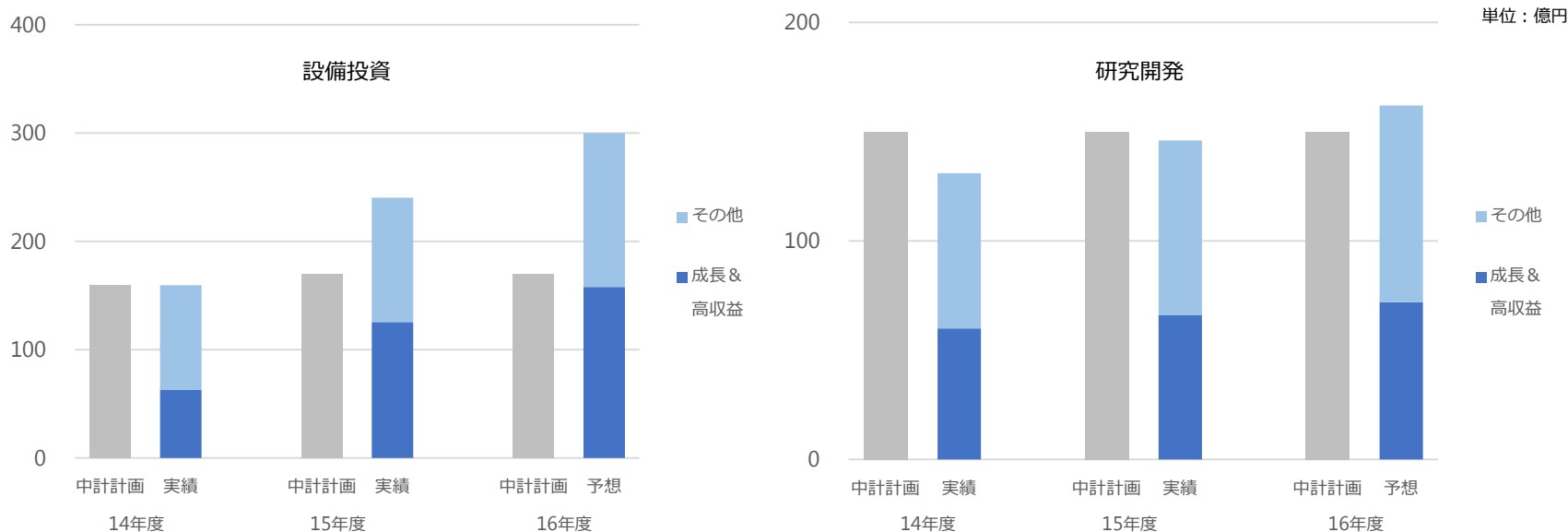
03

「中計16」課題達成状況

実施状況	課 題
計画過達	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成長&高収益事業に重点投資 （設備、開発、採用、M & A / 産業用クレーン） ・ 収益力向上（射出成形機、産業用クレーン、タービン） ・ サービス事業伸長
計画通り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新製品市場投入（変減速機、射出成形機） ・ 国内工場活性化、競争力強化 （変減速機、射出成形機、ショベル、産業用クレーン、タービン） ・ グローバルサプライチェーン再構築・強化 （変減速機 / 欧州・ブラジル、射出成形機 / 欧州）
計画未達 (継続課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製品品質問題による利益率の低下（ボイラ、医療関連装置） → 収益力改善、エンジニアリング力強化

03

「中計16」投資実施状況（設備・開発）



位置付け	主要設備投資	主要開発投資
成長&高収益	精密減速機用工場設立[中国]（変減速機） 国内生産設備増強・更新（変減速機、射出成形機、産業用クレーン、タービン）	ロボット用精密減速機（変減速機） 全電動超高速機（射出成形機）
収益安定化	トレーニングセンター開設[千葉、米国] （シヨベル、モバイルクレーン）	次期排ガス対応（シヨベル） 自動車車体部品軽量化製造システム [STAF]（産業機械）
One-SHI	—	電機・制御、ICT、ロボット応用技術

03

2016年度重点課題

先行き不透明感があるので外部環境（中国市場の停滞、円高傾向）の好転は望まず、足元を固める。

<当年度完遂する課題>

- **商品・技術開発**（含 ICT活用）
- **サービス事業拡大**（含 機会創出、拠点展開）
- **製品品質改善・一流化**
- **新成長分野の探索と事業のあり方見直し**
（含 アライアンス、M&A）
- **不採算事業部門の立て直し**

将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。

単位：億円

		北米	ヨーロッパ	アジア (除 中国)	中国	その他	海外合計	日本	総売上高
全社	2015年度	1,308	666	750	506	454	3,683	3,325	7,008
	(比率)	18.7%	9.5%	10.7%	7.2%	6.5%	52.6%	47.4%	100%
	2014年度	1,226	567	756	575	471	3,596	3,075	6,671
	(比率)	18.4%	8.5%	11.3%	8.6%	7.1%	53.9%	46.1%	100%
油圧シヨベル	2015年度	304	223	172	142	96	936	535	1,471
	(比率)	20.6%	15.2%	11.7%	9.6%	6.5%	63.6%	36.4%	100%
	2014年度	294	153	135	245	129	956	551	1,508
	(比率)	19.5%	10.2%	8.9%	16.2%	8.6%	63.4%	36.6%	100%